


工業技術支援アドバイザーの紹介

広島市立大学 納島 正弘 (のうじま まさひろ)		
【専門部門】	デザイン	
【専門分野】	商品開発デザインコンサルタント、広告デザイン、パッケージデザイン、サインデザイン、グラフィックデザイン	
【略歴資格等】	サブロー広告(株)入社、サブロー広告(株)より独立、(有)納島デザイン事務所設立、(有)ROCKETSへ社名変更 株式会社地域デザイン研究所設立、アートディレクター 安田女子大学文学部、穴吹デザイン専門学校非常勤講師	

【アドバイザーから一言】

デフレスパイラルとデザイン現場のデジタル化により、効率と経済性が優先され、市場主義は“いい物をより安く”を叫び、海外に原料や労働力を求めます。量のカウントはそれで補えますが、物に質を与える我々の領域はそのシステムに対応できにくくなっているのが現状です。

コンピュータの功罪は「誰にでも出来る」とデザインを普及させたこと、そして「誰にでも出来る」とデザインを勘違いさせたことです。デザインがアマチュア化し専門職の領域として受け持つ部分が少なくなってきました。デザインの解釈がどんどん本質から遠のいていくように感じます。

今を生きるデザイナーがやるべき仕事ってなんでしょうか？デザインが健全なコミュニケーションを生み、目的、課題を解決できているのでしょうか？デザイン作業に対する労働対価のみを売上げと見なして、無責任なデザインゴミを増産していないのでしょうか？デザインが必要としていることが判っていても、デザイナーに裏切られ続けている中小零細企業も多くいます。

我々はこの関係を少しでも是正できないかと思い、直接、一次、二次産業のオーナーと話をし、課題や悩みをくみ取り、商品やデザインからその企業の姿勢が透けて見えるような仕事をするように心がけています。地方には東京にもって行っても恥ずかしくないように！みたいなやり過ぎのデザインが多いかと思えば、知ってる人は知ってるからいいやと言うようなレベルのデザインのどちらかである場合が多く、主張しすぎず、商品のいい所を磨き出すようなデザインが少ないように思われます。我々は、研鑽を厭わず、広島の地で売れるもの、広島発で売れるものを日々研究しています。時にデザインしないほうがいい素材にも気がつきます。その実体の一番良い状態で関係づくりをさせることもデザインと信じています。デザインが消費者へのペテンにならないように、このまま市場原理主義やグローバルゼーションの渦に呑み込まれていかないように・・・

東京の成功スタイルに倣うことを錯覚してきた我々は、地域それぞれの進化をしないと生き残れないということが一部でやっと判ってきたように思われます。発注者の受容力とデザイナーのスキルとのバランスが合えば地方でこそ良い関係が生まれます。デザインを売り込むのではなく、魅力の手がかりをデザインで社会へ発信していきたいと思えます。

【研究内容の紹介】・【賞歴】・【その他】

NPO 法人雁木組理事兼アートディレクター、ひろしまデザインネットワーク会長、(公財)広島市産業振興センター商品企画・開発研修会講師、JAGDA [(社)日本グラフィックデザイナー協会]広島地区代表幹事、中国新聞広告賞 2007年～2010年選考審査員、広島工業大学女性キャリアセンター特別講師、広島アートディレクターズクラブ設立運営委員長、広島広告協会広告大学ゲストパネラー、ひろしま美術館ロートレックコネクション「デザイナーズ対談」(広島市立大学及川教授とともに)、中国新聞社 新入社社員研修特別講師、広島市立大学芸術学部特別講義、東京銀座 G8 ギャラリー「葛西薫展」葛西薫トークショーゲストスピーカー、広島県観光地ひろしま！おもてなし県民運動「シンボルマーク」公募選考委員、渋谷ヒカリエ「NIPPONの47人：2015 グラフィックデザイン」広島県代表に選抜、鹿児島県「食とデザイン 2015～2016」講演、ワークショップ講師

他、地域のデザインに関する講演、活動多数

【HP・Facebook】 <https://www.facebook.com/LOCAL.DESIGN.LAB0/?ref=hl>
<https://www.facebook.com/masahiro.nojima.35>